

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990300051		
法人名	医療法人厚生会		
事業所名	グループホームわかくさ郡山館		
所在地	奈良県大和郡山市額田部北町822-1		
自己評価作成日	令和5年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2990300051-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和5年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年は、毎年1回「生き生き祭り」を開催し全部署でイベントを行っています。地域に定着し、参加される方も年々増えています。その中で介護相談もっており、館の利用に繋がることもあります。しかしながら、昨年同様コロナの影響で全ての外出行事、地域の方との関りが中止となりました。行事が行えない分、日々の利用者様との関りをより大切に、職員が明るく元気に笑顔で利用者様と接することで、利用者様にも笑顔が増える日々を過ごしていただいています。外出は出来ませんが、中庭で行楽弁当を食べたり、お茶をしたりと季節を感じて頂いています。また、節分行事は他部署と合同で行ったり、敬老会、夏祭り、クリスマス会なども職員が案を出し合い、利用者様の楽しい思い出の1つとなるよう工夫行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大和郡山市南部にあり、佐保川沿いで県道を挟んで田畑の景色が美しい場所に建てられている。建物は鉄骨造り2階建てで、1階部分に2ユニットのグループホームがある。敷地内に同法人のデイサービス、小規模多機能型居宅センター、ケアプランセンターが併設され、地域の高齢者を総合的にサポートし地域貢献している。グループホームの入居者は、法人の病院や在宅支援サービスを経て入居される方も多く、以前は同館にあるデイサービスの催物や認知症カフェに出かけお互いの特徴を生かした交流を続けていたが、現在コロナ禍で中止となっている。コロナ禍で外出や面会に制約がありグループホーム以外の人とのふれあいは途絶えたが、中庭を利用した昼食や花見ドライブ、散歩と閉じこもらない生活やユニット合同のレクリエーション等楽しみごとを工夫している。また、災害が起こった際の連携や支え合いも、医療法人を母体とする強みを生かしたサポート体制で利用者を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「グループホームわかさ郡山館の倫理」について、掲示を行っており、昼礼時に読むよう心掛けています。	グループホーム独自の理念(ADLの向上と気の合う仲間と楽しみを見つける・家族との繋がり信頼の構築・チームワーク創り)を掲げ、職員は昼礼時に唱和し、夜勤者には申し送り等で対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、クリーンキャンペーンの参加を行っています。地域のご利用者もいらっしゃり、交流を図っています。今年にはコロナの為、参加できていません。	自治会に加入している。事業所前の足湯には地域の方が来られている。運営推進会議で話題となり実現できた近隣のお祭りへの参加、デイサービス利用者や地域の方が参加される法人主催の行事が、現在はコロナ禍のため中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前まで、デイサービスのフロアを利用し、「認知症カフェ」を開催しており、交流の機会を設けていました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。ご家族や、自治会の方、行政の方に活動報告を行い、ご意見を伺っています。昨年2月以降、中止しており事業所便り等を市、包括に提出しています。	運営推進会議は、3年前からコロナ禍で中止している。前回の課題であった「外部評価の結果を見た事がない家族が多い」事については、周知を図るために、玄関に備え付けるとともに利用者家族に郵送したが周知には至っていない。	管理者と職員とが一緒に話し合って自己評価を行い、表現方法も工夫され、事業所の取り組みが家族の方にもより理解されるような取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大和郡山市の介護相談員の方2名が月2回訪問されています。他事業所の悩み相談を聞かせていただき、当事業所の取り組み等を伝えています。(現在は中止中)	市とは法人が主体となって連携している。介護相談員の訪問も現在中止されている。以前は市職員が運営推進会議に参加されていたが、今は中止になっている事もあり、事業所便り等を市に提出する時にお会いし連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議にて、身体拘束についての話し合いは、行っています。玄関については、外部からの侵入を防止するために、施錠は行っています。	居室の配置上、職員の目が届きにくい奥の部屋にセンサーマットを設置している。また、家族の了解を得て掃き出し窓に補助錠を付け、全開できない部屋もある。利用者は、中庭やユニット間を自由に出入りしている。管理者会議で研修した内容を館内会議で共有し、2ヶ月に1回の身体拘束委員会報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	館内研修にて研修を行っております。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学べておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書及び重要事項を読み上げ、ご理解いただいています。随時質問には、お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に利用者様の近況等を伝えるようにしており、管理日誌、申し送りノートにも記入し職員全員が把握するようにしています。場合によっては、ケアプランにも反映しています。	家族の意見は、月1回利用料の支払いに来られた時に聴いている。食事が手作りからクックチル方式に変わったことに対して、利用者家族からは手作りの方が良いという意見を頂いている。	コロナ禍で家族は、利用者の様子を知る機会が減っている。ケアマネとの面談も中止されており、今まで以上に家族意見の聴取の仕方や利用者の状況の伝え方を工夫することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議にて、話す機会を設けています。	職員の意見は、ミーティングやケアの実践の場で聴いている。コロナ禍という事で外出できない利用者の気分転換に中庭で食事する事や、タブレット面会といった意見があり実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回考課表提出し、評価、指導を頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体である病院への研修参加、実践者研修・リーダー研修への参加を促しています。2か月に1度は、館内研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はおこなえていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から出来るだけ話を伺っていますが、本人から情報が効けない場合は、ケアマネジャーから情報聴取アセスメントシート記入にて把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時等、要望を聞くように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを受けながら、グループホームの申し込みをされる場合があります。その場合は、グループホームのサービスの特長を説明しています。認知症の症状により、グループホームが適切でない場合は支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛付をできる方と一緒にしています。創作も一緒にしたり、日常生活の中での作業を出来るだけ一緒にしています。又洗濯物を干したり、畳んだりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ月1回日々の様子を手紙にてお知らせしています。その内容を元に面会時お話しすることもあり、ご利用者について、色々教えて頂く機会が多くあります。安心して頂いていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に特に制限は設けておらず、施設にいらっしゃった場合、前事業所の職員の面会もあります。又馴染みのお店と一緒に掛かけたりしています。※現在コロナの為、外出は禁止中。面会はタブレットにて実施。	現在コロナ禍で人と会う交流は、タブレット面会としているものの、お友達との手紙の交流や電話での会話はよくあり、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の周辺症状が非難されることのないよう、スタッフがフォローしています。食事の席等配慮し双方穏やかで居ていただけるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への面会や、ご家族の相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を聴取把握し、周辺症状への対応を行っています。本人の行動を理解し対応しています。	入居時や日々の暮らしの中で、利用者とその家族から意向を聴いている。植栽をしたり、夏野菜を植える方もいる。前回の課題であった「職員が利用者の住まいされていた居宅を訪問すること」については、話し合いの結果、プライバシーの問題があるため難しいとのことになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート記入にて把握に努めています。ご家族から出来るだけ一緒に生活されていた時の話を伺うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを見つけ、提供するよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前サービス事業所担当者や、ご家族から情報を聴取し計画に反映しています。	家族の来訪時にケア計画の要望等を聞き、それらをケア会議で報告し、かつ職員の意見を聞いて計画に反映している。前回の課題であった「モニタリングや評価の結果を記録し介護計画に活かす」ことについては、今後は記録として残すよう変更した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ブレインストーミング行う場合もあります。全スタッフの気づきを把握し、計画を見直す場合があります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪におつれしたり、買い物や外出、ご家族が不可能な場合、受診等お連れしていません。 ※今年は受診以外行えておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に演奏会等を行っていただいたり、地域資源の活用に努めていますが、今年は全くおこなえておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院であり、往診を依頼される方もありますが、それぞれの主治医を継続し、往診、受診の対応をしています。	ホームの協力医が内科医は月1回、歯科医は月2回訪問し契約した利用者が受診している。希望により独自のかかりつけ医をもつ利用者もいる。受診は、基本家族が付き添う事となっているが、コロナ禍でもありホーム職員が通院介助している。夜間の緊急時は、救急車を利用することになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化に応じ看護師に指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの連携は、入院時から連絡をし、情報を頂いています。退院後の入所等を含め、空状況等お伝えしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人に医療機関有、入院して頂く場合が多いのが現状です。看取りを行ってくれる在宅医が不在であるのが現状です。	事業所の看取り指針があり、「家族の希望があれば当ホームで看取りを行う」と書かれているが、終末期に入った時点で協力医から説明を受け、同法人の医療機関に転院して頂いており、看取りの事例はない。利用者家族には入居する際に、口頭で看取りの実情を説明をしている。重度化対応指針は法人で検討中である。	事業所の看取り指針と看取りの実情に違いがある。利用者家族の誤解を招かないためにも指針と実情が一致する取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの正しい使用法について年1回勉強会を行っています。急変時に対応できるよう手順も明記しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年2回実施しています。夜間を想定した訓練は年2回実施していません。	春と秋に同館内の併設事業所合同で避難経路の確認とともに、利用者も参加して避難訓練を行っている。近くに佐保川が流れているので、水害想定も訓練も行っている。事業所は避難所にも指定され、地域との連携も取れている。備蓄は水、食糧、オムツ等3日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ねできていると思います。	利用者のプライバシーで一番大切にしていることは、トイレ誘導でいかに周りに気付かれずに誘導できるかを常に意識し声掛けしている。居室に入るときは必ずノックをしている。お風呂は希望があれば同性介助で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけるように心掛けていますが、少ないと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいかを伺う機会は少ないと思います。外出や、レク等もスタッフが先に決定する方が多いと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助時、好みを伺ったりはできていません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲でしていただいています。	食事についてはパンフレット等で手作りをアピールしていたが、法人の方針からクックチル方式のものに変更された。職員の声から「手作りの日」を設け、サンドイッチを作ったり行楽弁当を注文して中庭で頂くなど、楽しい食事を工夫している。茶碗、湯呑、お箸は、利用者の使い慣れた物を使用している。なお、外食はコロナ禍のため中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様の応じた対応をしております。水分の摂取が少ない方には、お茶ゼリーやアクエリゼリーを提供し摂取を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、実施しています。月2回訪問歯科の受診を受けている方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入で、スタッフ全員が排泄パターンの理解ができケアを行うよう心掛けています。	1ユニットに3か所のトイレがある。病院や介護老人福祉施設からの転居者が多い為、オムツをしたまま入居してくる方が多い。各入居者の排泄チェックだけではなく、自立の為の移乗の技術を研修し、職員が利用者に応じた介護方法を実施することでオムツ外しの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、乳酸菌飲料等を取り入れたりしています。下剤が必要な方もいらっしゃるようですが、繊維質の多い食材等を心がけて使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来ているとは言えない状況です。	3日に1回、午前中に入浴している。なるべく浴槽に浸かれるように支援し、湯温の希望にも応じている。週末には、同館にある温泉設備も利用している。こだわりのシャンプーで洗髪している方やお気に入りの入浴剤を家族に持って来てもらって入浴を楽しんでいる方もいる。また、季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で横になっていただけるよう、環境は調えています。又就寝の時間は決めておらず、個々に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チャートに明記し、スタッフ全員が把握できるよう心掛けていますが、詳細を把握するまでにはいたっていないと思います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理なく出来る事をさせていただいています。認知症の周辺症状として、原因を把握し、穏やかに暮らしていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望には添えていないと思います。自分の言葉で伝えられる場合以外にも、行きたい場所等はあるはずですが。コミュニケーションを心がけて希望を引き出していく必要があると思います。	コロナ禍で外出を控えているが、中庭で食事をしたり、畑で野菜やお花を育てたり、ホームの周囲を散歩、そして事業所前の足湯を楽しむなど、外気を浴びる支援を続けている。ドライブで石上神社や箸尾川の桜を見に行く予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持はしていただいていませんが、自由に使えるよう、ご家族からお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビをご覧になっている利用者がいらっしやり、終日ついている場合があります。出来るだけ不必要な場合は消すように心がけています。中庭を利用し、おやつを召し上がっていただいたりと季節感を味わっていただいています。	1ユニットに2台の六角テーブルと肘掛け椅子が置かれている。テーブルは、利用者に合わせて高さが調節できる。壁には手作りのカレンダーや今年の干支の兔、そして季節を感じさせる手作りの作品が飾られており、その中で利用者はそれぞれ思い思いに過ごされている。空気清浄機で湿度管理し換気にも注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、離れた場所にテーブルを置いたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具を持参して頂いている。又観葉植物を置いたり工夫しています。	居室の床はフローリングで、洗面台、ベッド、カーテン、床頭台が備え付けられ、利用者はそれぞれ思い入れのある物を持ち込んでいる。中には床に絨毯を敷いたり、冷蔵庫やテレビを置いて、テレビ鑑賞を楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を大きく書いたりしている。又トイレの周りの壁は色を変えています。		